

## 癌告知を受けた患者の家族機能に関する研究

伊東志乃・塚本康子・前野真由美

### はじめに

我が国は、医療財源の抑制に伴う在院日数の短縮化や、高度医療の充実による慢性疾患患者の増加によって、在宅で医療を受けている患者が増えてきている。従来は病院で治療を受けていたがん患者が外来通院での治療が可能となり、在宅でターミナル期を過ごしたいと願う患者の希望にも応えられるようになってきた。そういう中で患者家族の介護問題がクローズアップされてきている。

米国の Laizner らは急性期及び治療期のがん患者の家族は、移動、処置の介助、投薬、病状管理といった医療スタッフに準ずる役割を果たし、介護負担が大きい<sup>1)</sup>と報告している。また、わが国の本田らも、がん患者家族は情緒的身体的に診断や治療から大きな影響を受けている<sup>2)</sup>、と報告している。いずれもがんと闘う患者をとおして、家族機能が変化していくことを示唆している。

先行研究では家族機能の問題については、子どもの問題、虐待や乳幼児の育児に関する問題、精神科領域ではアルコール依存症、摂食障害、精神分裂病、PTSD、アディクションなどの家族崩壊の問題、さらに在宅療養や高齢者に関する介護負担の問題、乳ガン患者夫婦では夫婦関係、死別後の精神的健康度と家族機能などの報告がある。しかしこれらの中には、治療中のがん患者の家族機能を検証している報告は見当たらない。

そこで、今回は治療中のがん患者の家族機能について定量的に測定し、家族機能の実態を明らかにすることを目的とした。

### 研究目的

1. がん患者の家族機能の実態を明らかにする
2. 入院・外来通院している患者の家族機能の実態を明らかにする

### 研究方法

家族機能の測定として、今回はFFFS日本語版を用いた。これは、家族機能を定量的に測定する用具として、アメリカの Feetham が開発した FFFS (Feetham Family Functioning Survey) を、日本の法橋が翻訳した質問紙である。これは、家族機能を「家族と個々の家族構成員との関係」「家族とサブシステムとの関係」「家族と社会との関係」の3つの側面から測定する尺度で、回答選択肢型25項目と自由回答型2項目がある。25項目には、それぞれ「a.現在どの程度ありますか」、「b.どの程度あると望ましいですか」、「c.あなたにとってどの程度重要ですか」という質問に、1(ほとんどない)~7(たくさん)のリッカート・スケールで回答するものである。

対象は、富士市内の公立病院に通院するがん患者とその家族、及び入院して積極的治療を受けているがん患者とその家族。がん告知は、受けている患者を対象とした。家族とは、患者と同居中で、家族全体の状況をもっともわかっている 20 歳以上のもの 1 名。

方法は FFFS 日本語版による無記名式アンケート調査。病棟看護師長に一人暮らし以外の患者を選出してもらい、研究者が患者に口頭で説明し調査票を配布、回答の協力を依頼した。倫理的配慮として、質問紙には研究の主旨、自由参加の保証、プライバシーの保証を説明した文章を添付し、同意を得たものだけを対象とした。回収は、郵送法及び留置き法とした。調査期間は、平成 15 年 2 月～現在も調査中。

## 結果

現在のところ、がん告知された入院患者とその家族 19 組から回答を得た。集計が終了している患者家族の結果について述べる。

### 1) 属性

がん患者家族の集計結果から、家族人数は 2 人から 7 人で、平均家族人数は 4.37 人。家族構成は、患者夫婦と子どもという家族が 8 名 (42.1%) と最も多く、患者夫婦と子ども夫婦と孫の 3 世代家族が 6 名 (31.6%)、患者夫婦のみが 4 名 (21.0%)、患者夫婦と子どもと患者の両親が 1 名 (5.3%) であった。

回答者の立場は、妻が 9 名 (47.4%) で最も多く、次に夫 6 名 (31.6%)、男性子ども 3 名 (15.8%) であった。回答者の年齢は、25 歳から 70 歳で、平均が 49.53 (±12.79) 歳であった。回答者の職業については、会社従業員が 10 名 (52.6%) と半数をしめ、無職が 4 名 (21.1%) であった。医師からの病名告知の時期については、半年前が 11 名 (57.9%) と最も多く、患者の病名告知後 6 年以上経過している家族は 1 名であった。面会の回数については、毎日面会しているのが 13 名 (68.4%)、2~3 日が 6 名 (31.6%) であった。

病名については、肺がんが 4 名 (21.0%)、卵巣がん・子宮がんが 4 名 (21.0%)、白血病・悪性リンパ腫が 3 名 (15.8%)、耳下腺がん・咽頭がん、大腸がん、肝臓がんがそれぞれ 2 名 (10.6%)、乳がん、食道がんがそれぞれ 1 名 (5.2%) であった。

### 2) 家族機能

がん患者家族の集計結果から (表 1)、d 得点の平均が高いもの、つまり家族機能が十分に機能していない項目は、「配偶者が仕事 (家事を含む) を休むこと」「余暇や娯楽の時間」「医療機関にかかったり、健康相談を受けること」「配偶者と過ごす時間」「日課が (家事を含む) が邪魔されること」の順であった。一方、d 得点の低いもの、つまり家族機能が機能している項目は、「身内 (配偶者は含まない) に関心事や心配事を相談すること」で、次に「身内 (配偶者は含まない) からの精神的サポート」「配偶者に関心事や心配事を相談すること」の順であった。

入院している患者、外来通院している患者とその家族については集計中である。

## 引用文献

- 1) Laizner AM, etc: Need of family caregivers of persons with cancer A review. Seminars in Oncology Nursing, Vol9, No2, 114-120, 1993

2) 本田彰子他: がん患者の家族の思いに関する研究-診断機から治療期における家族の思いの構造化-、日本がん看護学会誌 11 巻 1 号、49-58、1997

表1 FFFS日本語版 の項目別得点

項目	平均(±標準偏差)			
	a.現在の程度 ありますか (a得点)	b.どの程度あ ると望ま すか (b 得点)	c.あなたにと つてどの程 度重要 ですか (c得点)	a得点とb得点の 差の絶対値 (d得点)
1. 知人に関心事や心配事を相談すること	3.95(±2.04)	4.00(±1.56)	4.32(±1.95)	1.00(±1.00)
2. 身内(配偶者は含まない)に関心事や心配事を相談すること	4.72(±1.99)	4.56(±2.15)	5.06(±2.04)	0.50(±1.04)
3. 配偶者と過ごす時間	4.84(±2.06)	5.95(±1.13)	6.16(±1.12)	1.42(±2.01)
4. 配偶者に関心事や心配事を相談すること	4.79(±2.07)	4.84(±1.86)	5.26(±1.73)	0.58(±0.90)
5. 近所の人や司療と過ごす時間	2.53(±1.35)	3.47(±1.50)	3.47(±1.54)	0.95(±1.18)
6. 余暇や娯楽の時間	2.89(±1.66)	4.74(±1.05)	5.00(±1.33)	1.84(±1.61)
7. 育児や家事などに対する配偶者の協力	3.67(±2.30)	4.56(±1.82)	4.89(±1.97)	1.22(±1.77)
8. 育児や家事などに対する身内(配偶者は含まない)の協力	4.44(±1.98)	4.89(±1.81)	5.33(±1.53)	0.78(±1.11)
9. 医療機関にかかったり、健康増進を受けること	3.94(±2.04)	3.39(±1.82)	5.28(±1.64)	1.56(±1.72)
10. 育児や家事などに対する知人の協力	2.28(±1.45)	2.89(±1.60)	3.17(±1.58)	0.72(±0.96)
11. 子どもに関する心配事	4.12(±2.15)	3.00(±1.66)	4.29(±2.23)	1.24(±1.75)
12. 子どもと過ごす時間	3.65(±2.03)	4.41(±2.12)	4.65(±2.21)	0.88(±1.22)
13. 子どもが保育所、幼稚園、学校などを休むこと	1.73(±1.28)	1.27(±0.80)	2.87(±2.23)	0.87(±1.41)
14. 配偶者との意見の対立	2.89(±2.00)	2.28(±1.41)	3.83(±1.92)	1.28(±1.71)
15. 体調が悪いとき	2.26(±1.52)	1.74(±1.37)	4.42(±2.06)	0.95(±1.54)
16. 家事(料理、掃除、洗濯、庭の手入れなど)をする時間	4.05(±1.54)	3.89(±1.49)	4.47(±1.12)	1.21(±1.47)
17. 仕事(家事を含む)を休むこと	2.89(±1.97)	3.11(±1.63)	4.16(±1.57)	1.37(±1.42)
18. 配偶者が仕事(家事を含む)を休むこと	4.06(±2.75)	2.41(±1.62)	4.18(±1.94)	2.88(±2.15)
19. 知人からの精神的サポート	3.21(±1.75)	4.05(±1.61)	4.00(±1.60)	0.95(±1.18)
20. 身内(配偶者は含まない)からの精神的サポート	4.05(±2.01)	4.47(±2.01)	4.74(±1.88)	0.53(±0.84)
21. 配偶者からの精神的サポート	4.84(±1.83)	5.32(±1.53)	5.37(±1.42)	0.68(±1.16)
22. 日課(家事を含む)が邪魔されること	3.63(±2.01)	2.63(±1.86)	3.84(±1.57)	1.42(±1.68)
23. 配偶者の日課(家事を含む)が邪魔されること	2.63(±1.86)	2.11(±1.29)	3.26(±1.82)	0.74(±1.10)
24. 結婚生活に対する満足感	4.63(±1.74)	5.53(±1.65)	5.68(±1.29)	1.00(±1.60)
25. 性生活に対する満足感	2.21(±1.84)	3.39(±1.79)	3.56(±2.04)	1.44(±1.69)
自由記載				
26. 現在の生活において最も困っていること				
27. 現在の生活において一番の助け				

(2003年3月20日 受理)